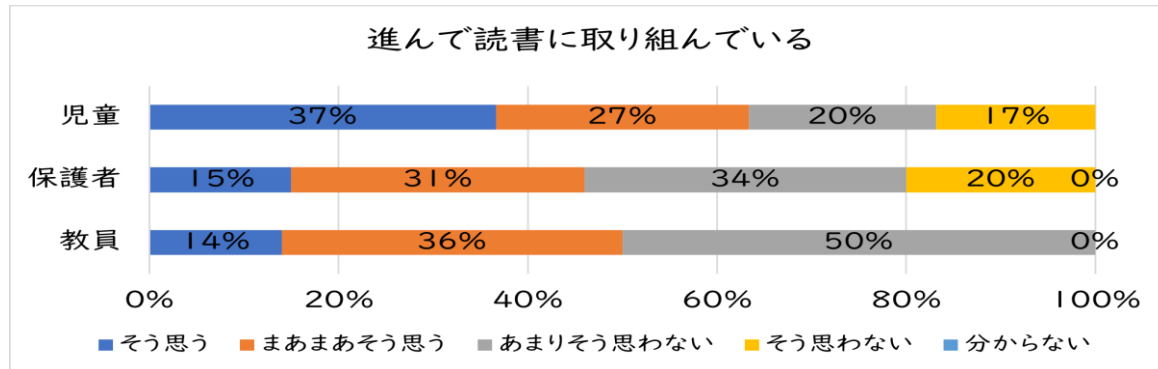
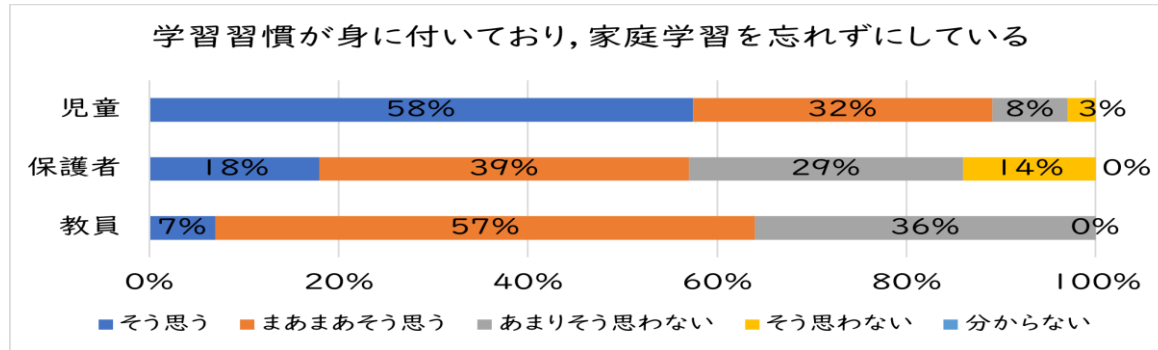
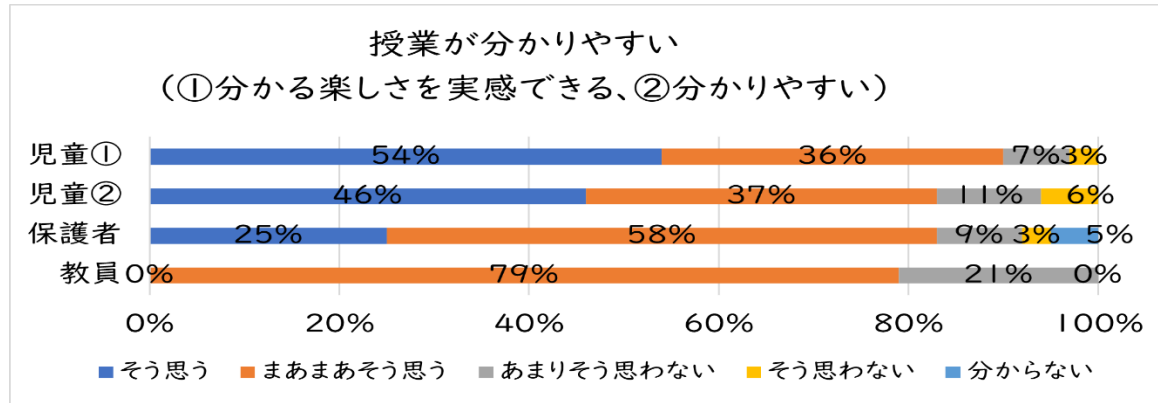


<R6 第1回学校評価結果について>

1 学力向上



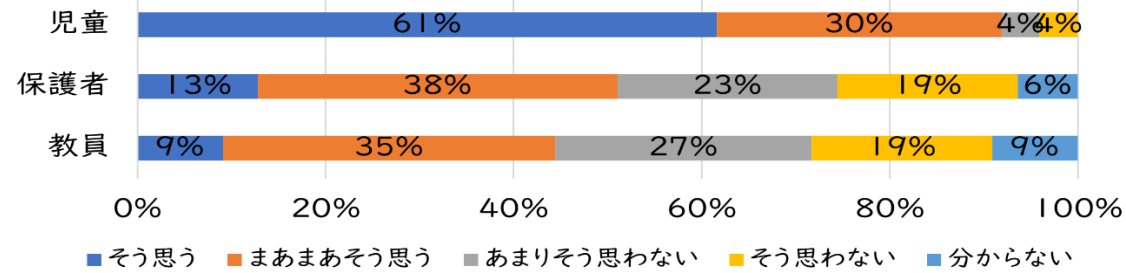
※表は昨年度2回目の結果(%)

R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
児童①	52	37	8	3	0
児童②	58	36	3	2	0
保護者	28	60	6	2	4
教員	0	85	15	0	0

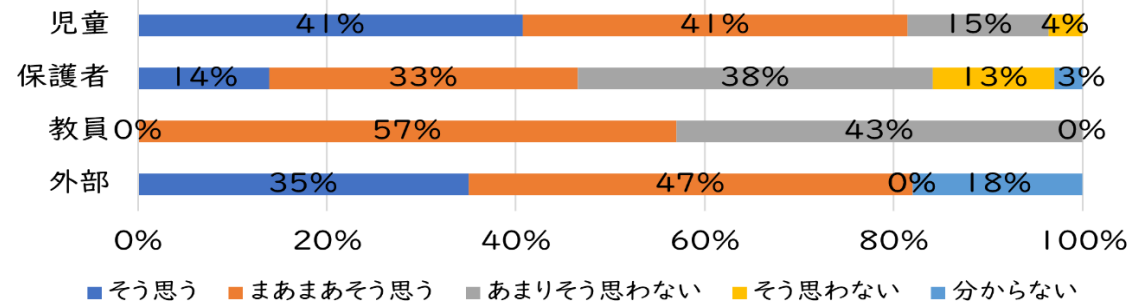
R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
児童	52	33	10	5	0
保護者	20	53	18	9	0
教員	8	62	31	0	0

R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
児童	34	29	20	17	0
保護者	18	28	31	23	0
教員	0	69	23	8	0

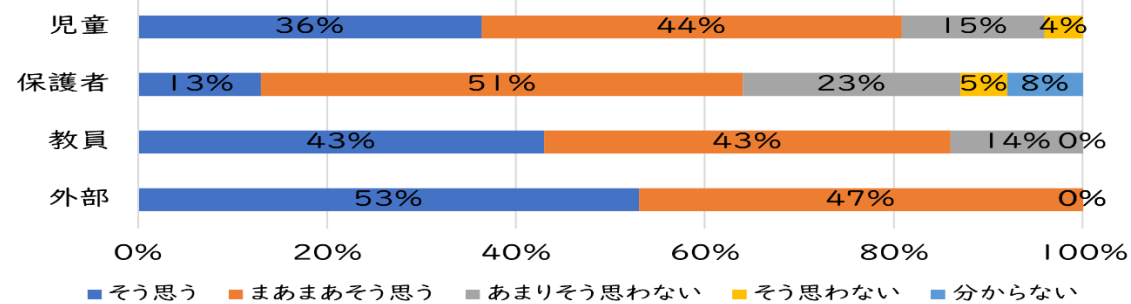
英語に進んで取り組んでいる



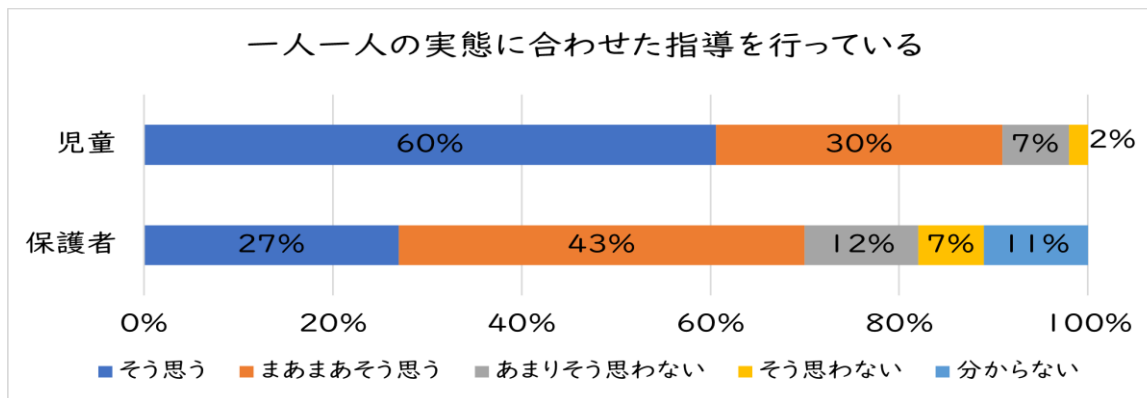
自分で調べ考え学習している



調べる活動を通して、気仙沼の理解を深めている



R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
児童	44	34	16	6	0
保護者	31	43	21	2	3
教員	31	61	0	8	0
外部	88	12	0	0	0

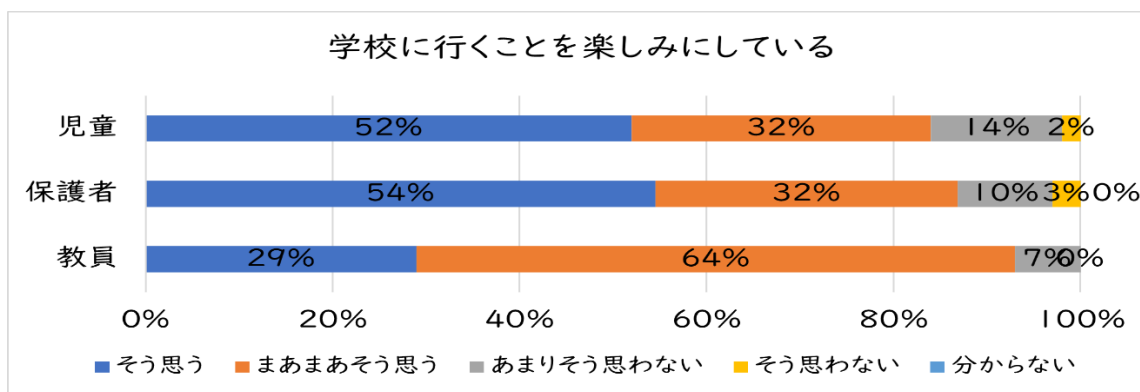


R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
保護者	18	51	12	5	14

<結果(●)と対応(○)>

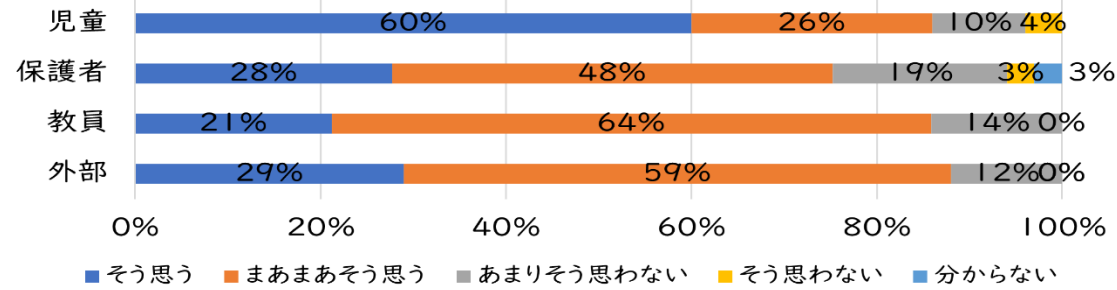
- ・児童、保護者ともに昨年度の結果と大きく変容は見られない。学習習慣や読書について力をいれているが、昨年度とほぼ同様の結果となっている。
- 授業に関しては、今後も「分かる楽しさを実感できる授業」「考えを子供たちが伝え合う授業」「児童一人一人の実態に合わせた指導」を実践する。
- 学習習慣についての設問では、児童と保護者とで取組への認識に違いがある。保護者への協力を得ながら、児童が主体的に家庭学習に取り組めるよう働き掛け、内容についても工夫していく。
- 個に応じた指導(個別最適な学び)の継続的な実践を行う。

2 基本的な生活習慣



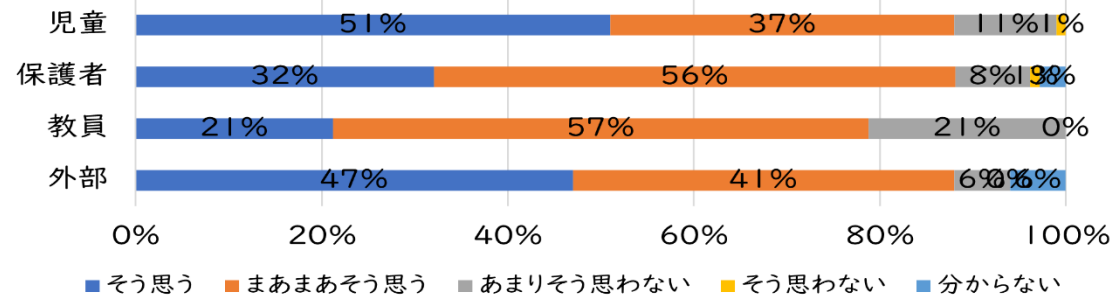
R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
児童	52	33	9	6	0
保護者	53	35	8	2	2
教員	38	54	0	8	0

進んで挨拶している



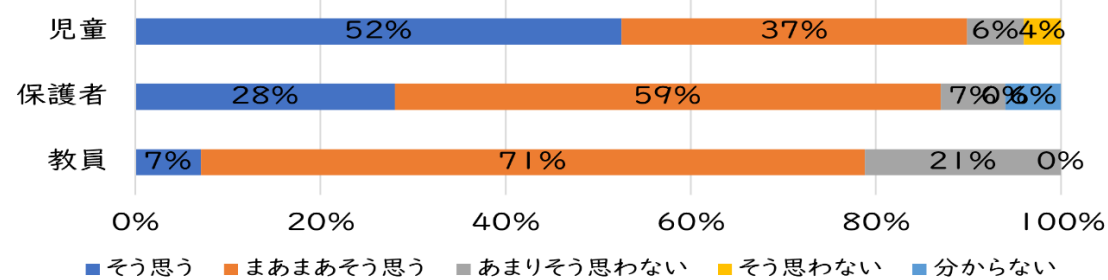
R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
児童	58	32	7	3	0
保護者	26	53	18	1	2
教員	31	62	0	8	0
外部	50	50	0	0	0

ルールやきまりを守って生活している



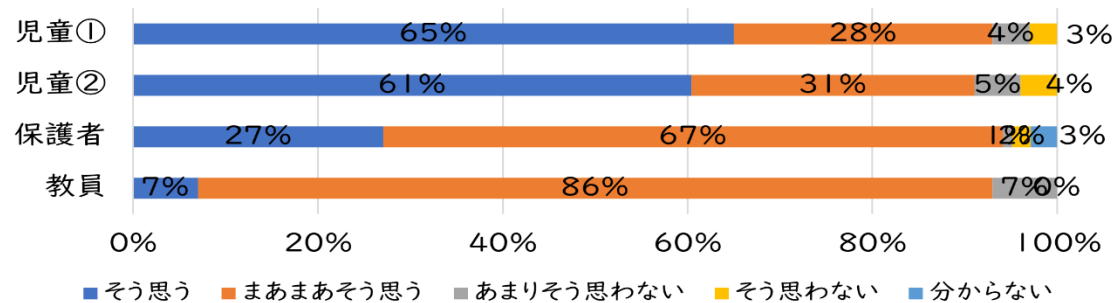
R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
児童	40	46	11	3	0
保護者	39	51	4	2	4
教員	0	77	15	8	0
外部	50	38	0	12	0

誰とでも仲良くしている

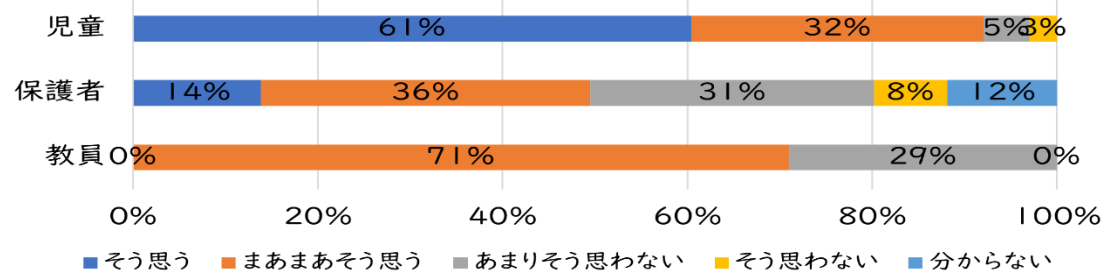


R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
児童	53	40	5	2	0
保護者	36	58	5	1	3
教員	15	62	15	8	0

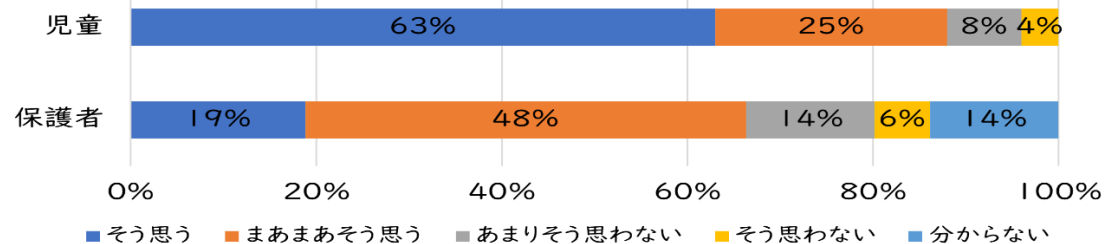
友達と協力して取り組んでいる①当番活動②縦割り活動



将来の夢や目標をもち、努力している



いじめや不登校に対して丁寧に指導している



R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
児童	59	28	9	3	0
保護者	18	44	28	4	7
教員	0	77	15	8	0

R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
児童	62	27	8	2	0
保護者	16	52	11	5	17

<結果(・)と対応(○)>

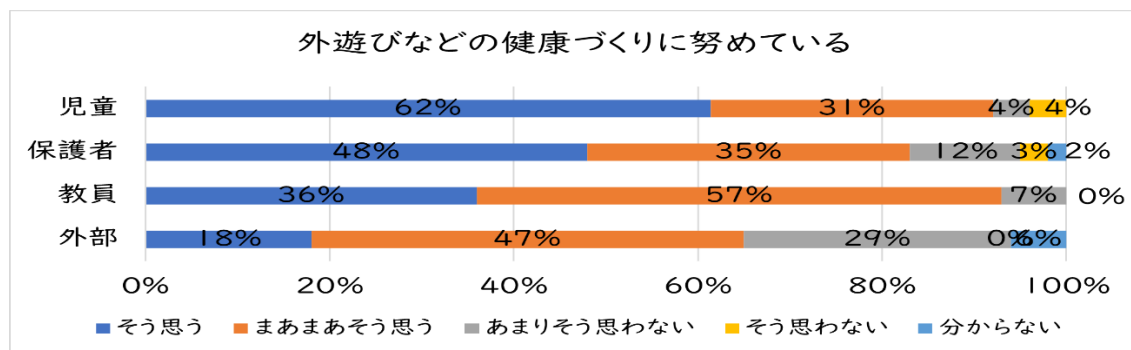
・「進んで挨拶している」の項目は児童の肯定的な割合が高いものの、外部、教員の「あまり思わない」の割合が増加している。児童間だけでなく、地域の方への挨拶も進んで行くよう呼び掛けていく必要がある。

○学級や学校で「友達の役に立った」「自分の役割がある」経験を多くさせることを継続して行く(自己肯定感、自己有用感の醸成)。

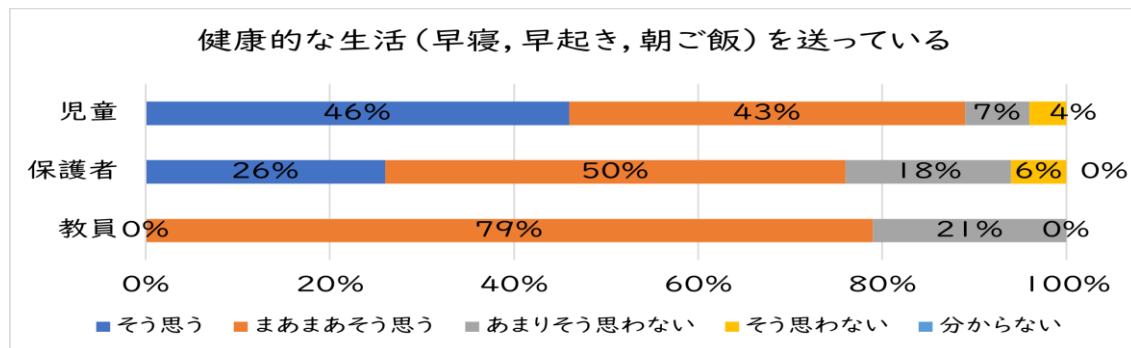
○将来の夢や目標をもつための指導(学級内で当番や係活動に取り組ませ仕事の意義を実感させる、先輩の取組の紹介、縦割り班活動での協力等を通し憧れを抱かせる)を意図的に実践する。

○不登校傾向の児童(遅刻が多いなど)については早期にケース会議を行い、対応方針を考える。

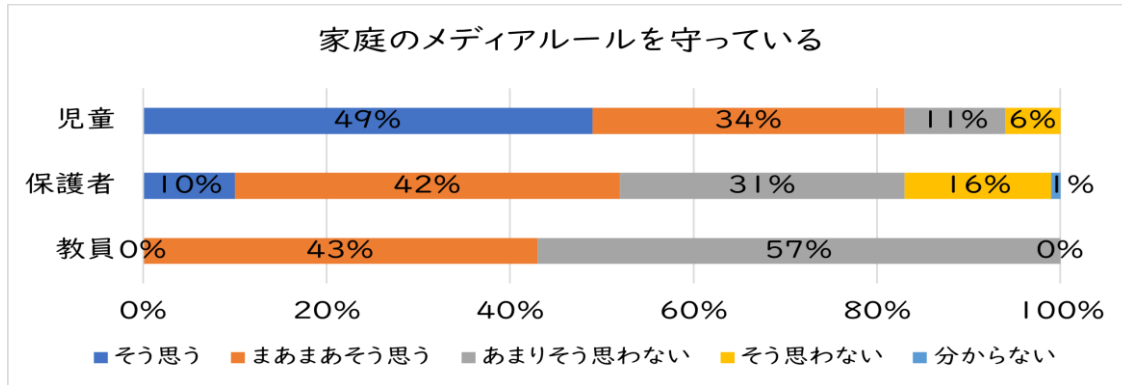
3 健康, 体力の向上



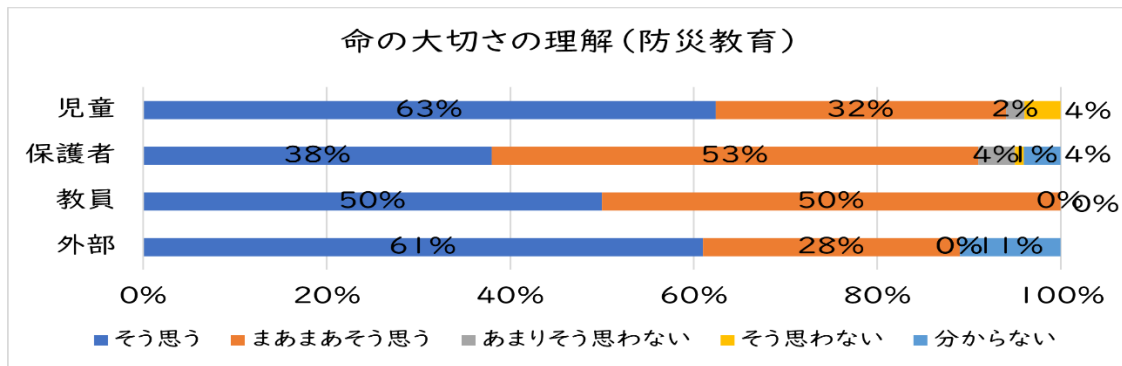
R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
児童	61	26	9	4	0
保護者	44	40	15	2	0
教員	54	38	0	8	0
外部	50	0	38	0	13



R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
児童	45	42	6	6	0
保護者	27	55	14	4	0
教員	15	69	8	8	0



R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
児童	44	36	12	8	0
保護者	11	48	26	15	0
教員	0	54	38	8	0

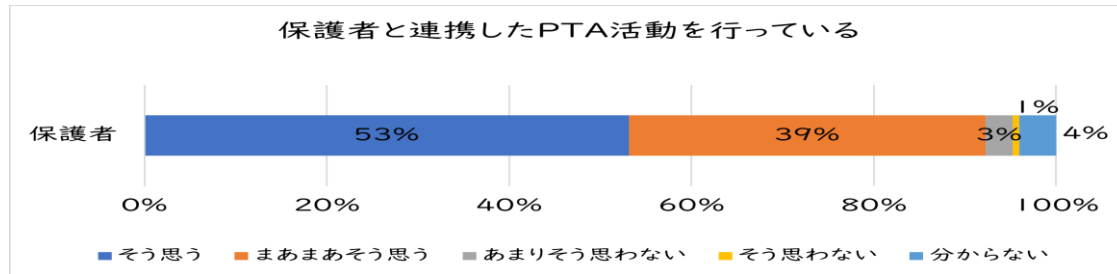


R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
児童	68	24	5	3	0
保護者	40	54	3	2	1
教員	14	86	0	0	0
外部	63	38	0	0	0

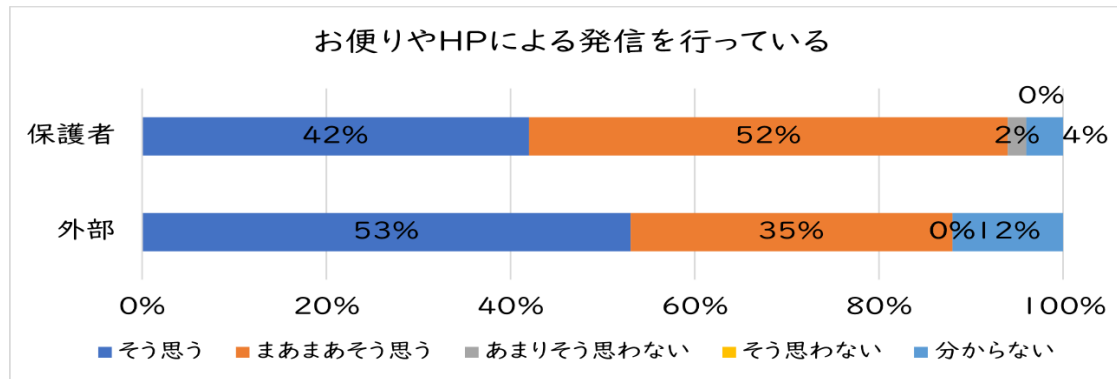
<結果(・)と対応(○)>

- ・外遊び、健康的な生活、メディアルールについて保護者の肯定的回答が多い。家庭でも意識しつつあることがうかがえる。
- ・一方でメディアルールを全く守っていない割合が高いことから、メディアについては二極化の傾向であるといえる。
- ・防災教育の意識について肯定的な回答が多い。
- 外遊び、徒歩通学の推奨を今後も呼びかける。また、2学期には業間マラソン等の取組を継続して行っていく。
- 中学校とともにメディアコントロールの実践を行い、お便り等で適切なメディアの使い方について発信していく。
- 自分で命を守ることができる実践的な防災教育を展開する。

4 PTA 活動等



R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
保護者	31	60	4	1	4



R5	そう思う	まあまあ	あまり	思わない	分からない
保護者	54	43	1	2	1
外部	50	25	0	0	25

<結果(・)と対応(O)>

・PTA 活動、学校の情報発信どちらも肯定的に回答する割合が高くなっている。

○連携の取れた PTA 活動であると感じている人が多い。広く多くの方にご協力いただけるよう働き掛けていく。

○ホームページによる積極的な発信と視聴の呼び掛けを今後も継続する。

<学校に対する意見や要望等> ※要約しています。

- ・子供たちが、約束や規範を守ることの大切さを理解できていない気がする。よその家に行く時のマナーや、低学年のうちは親と行動するなど、学校でも指導してほしい。
- ・携帯の持ち込みについて許可してほしいです。
- ・放課後や休日の遊び方まで対応していただいている。家庭によって子どもの安全管理、(休日の遊び方の)マナーなど様々だが、子供たちに統一した内容で指導していただいているのがよい。
- ・宿題や持ち物、行事について、お便り等細かく連絡があり、子供へのフォローがしやすい。
- ・夏休み中に他のお宅へ行く時の約束を指導してもらいありがたい。
- ・学校の校歌が分からない。ホームページに校歌が流れるようにしたり、歌詞を載せたりしてほしい。
- ・行事の日程のお知らせをもっと早く教えてほしいです。
- ・スクールバスの帰りの発車時刻が前後していることがある。多少遅れることは仕方ないが、可能であれば定刻で発車していただきたい。
- ・担任の先生は、いつもノートやテストに丁寧にコメントをしてくれ、細やかに子供を見てくれている。お友達との関係で悩むこともあるが、基本は学校が好きなので、このまま楽しく通ってほしいと思っている。
- ・子供に何かあれば連絡していただいたり、いつも丁寧に対応していただいたりしている。最近は安心して学校に送り出せている。
- ・我が子の良いところを認めて声掛けしてくださっている先生方にはいつも感謝している。
- ・教頭先生に電話対応していただいた際、担任の先生が電話した用件を把握していて職員同士の風通しの良さを感じた。
- ・体調が悪く欠席の連絡をした時に、担任の先生ではないのに本人の症状のことを理解して、心配して気を付けて見てくれているのだと感じた。その事を本人に話したらすごく安心したようだった。
- ・若い先生方が多いからか、児童に対する熱のこもった指導が少ないと感じる。
- ・市内水泳大会では、5年生や4年生は初めての大会で、見学する態度や応援する態度を知らないようだった。他の学校では、出場している児童の名前を呼んで大きな声で声をそろえて応援していたので、鹿折小の子供たちにも、事前に全員で応援することの大切さや応援の仕方を指導してほしい。
- ・子供が学校からのお便りを学校に忘れてくることが多いため、マチコミなどで流れてきたもので知ることが多い。
- ・子供の学校への行き渋りについて、保護者から相談があった時は、初期の段階で、担任の先生にも学校にもしっかりと対応してほしいと思います。
- ・保護者が子供の状況を学校に伝えて相談したことに対して、対応が不十分である。信頼して対応を任せられるように、保護者に子供の状況に配慮した対応や寄り添った対応をしてほしい。

